

1. 活動の概要

6月28日(水)、大田市立第三中学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。体験活動に「和同開珎作り」を希望されていたので、はじめに体験活動の低融点合金を鋳型に流し込む作業を行い、金属が固まる時間を利用して、「古代のお金と和同開珎」のワークシートや説明パネルを使って古代のお金や和同開珎について学習しました。次に、出雲市三田谷遺跡出土の「和同開珎」の実物を見ながら、和同開珎について学習を深めました。さらに、銅鐸の模鋳造品を活用して鋳造の技術についても学びました。

また、職員や先生の所有する「8レアル銀貨」、「寛永通宝」、「天保通宝」の実物を見ながら、世界遺産「石見銀山」の歴史や江戸時代の貨幣についても学びました。

最後に固まった低融点合金を鋳型から外して、枝銭から和同開珎を取り外しました。うまく外れたり、失敗したりしましたが、概ねうまく作ることができました。

2. 活動の様子 体験活動「和同開珎作り」



3. 子ども塾を終えて

1)生徒の皆さんから…

- ・ 和同開珎を自分で作ったこと、本物の和同開珎が見れたこと。
- ・ 日本のお金より中国のお金をつかう人が昔いっぱいいたこと
- ・ 銀行がない時代にどうやってお金をくばっていたか知りたい。

2)担当の先生から…

- ・ 貨幣や銀の話により、鯖戸が歴史に対して大変強い関心をもったことがよかった。
- ・ 学校側の迎え入れる為の心構えや教員の知識もある程度は大切だと感じました。

3)古代文化センターから

授業でも奈良時代に入ったところだったので、興味をもって説明を聞いてもらいました。ワークシートや説明パネルを通して、古代のお金や和同開珎について基本的な学習をした後に、発掘調査によって発見された「和同開珎」の実物を見ることができたので、古代の技術の高さに驚くとともに、非常に興味関心が高まったようでした。

また、古代の歴史、貨幣、石見銀山などに興味関心が高く、いろいろな点からたくさんの質問があり、とても学習意欲の高い生徒さんたちでした。

体験活動の和同開珎作りでは、うまく鋳型に流し込むこともでき、きれいに鋳型からも外すことができました。最後に枝銭から和同開珎を取り外す時に少し失敗もありましたが、みなさんとても楽しく体験を行うことができたかと思えます。